第７０回道南医学会大会一般演題

上部消化管内視鏡検査における咽頭麻酔の効率化と満足度についての検討

国立病院機構函館病院　内視鏡室　○佐　藤　千代子・西　川　有　佳
今　村　佳　奈・松　本　健太郎
松　本　和加子・福　原　直　美
阿　部　千　里・井　川　敬　子
同　消化器科　間　部　克　裕・加　藤　元　嗣

【要旨】
上部消化管内視鏡検査では、苦痛なく検査が施行できるよう咽頭麻酔が行われる。咽頭麻酔の方法はキシロカインビスカス法、アイスドロップ法、スプレー法等があるが、今回効率的かつ患者満足度の高い咽頭麻酔導入を目的として、当院の従来法（アイスドロップ法）とスプレー法を比較検討したため、報告する。

【キーワード】：上部消化管内視鏡検査、咽頭麻酔、効率化、患者満足度

【背景】
上部消化管内視鏡検査では、苦痛なく検査が施行できるよう咽頭麻酔が行われる。当院では、過去に行ったキシロカインビスカス法とアイスドロップ法の比較検討の結果からアイスドロップ法（従来法）を行ってきた[1]が、前処置に時間がかかる経鼻内視鏡検査の増加により、前処置の場所を確保することが難しくなった。また、検査開始時間に間に合わず、咽頭麻酔の追加が必要な症例も増加した。そこで、効率的かつ患者満足度の高い咽頭麻酔導入を目的として、咽頭麻酔の方法を従来法とスプレー法で比較検討した。

【対象と方法】
検討１：咽頭麻酔の効率化を検討するため、従来法、スプレー法で２週間の期間でタイムスタディーを行った。
検討２：従来法の経験者にスプレー法を行い、アンケートによる患者満足度調査を行った。

【結果】
検討１：スプレー法は従来法と異なり検査直前に処置を行うため、従来法の平均12分に比較して１分と有意な時間短縮が得られた（図１）。また、咽頭麻酔をかける場所が不要となり、検査ベッド上での麻酔が可能となった。
検討２：麻酔に要する時間は73％が短いと回答し、麻酔時の不快感はスプレー法で少ないと回答したのが42％、変わりないが48％であった（図２）。麻酔時の不快感が64％、内視鏡挿入時と検査中の苦痛は58％がスプレー法のほうが良いと回答した。スプレー法は麻酔時間も短く、検査時も苦痛が少ないという結果で、参加者の67％が次回選ぶならスプレー法が良いと回答した（図３）。

【考察】
スプレー法は検査直前にかけられる麻酔であるため、検査時間を予測した咽頭麻酔の実施が可能で麻酔追加が不要となり効率的であった。また、医師、看護師が立ち合いのもとで実施できるため安全性も高められた。検査直前の咽頭麻酔であるが、スプレー法は粘膜面からの吸収が早い麻酔方法である[2]ため苦痛軽減につながったと考えられる。

【結論】
スプレー法は効率的で患者満足度の高い咽頭麻酔法であった。

【参考文献】
1) 井川敬子ほか：咽頭麻酔におけるキシロカインビスカスのゼリー法とアイスドロップ法の比較検討，北海道看護研究学会集録；2007，77－79，2007
2) 水野順子ほか：上部消化管内視鏡検査の咽頭麻酔におけるリドカインビスカスとリドカインスプレーの麻酔効果と麻酔苦痛度の比較検討，福島医学雑誌；2011，12－17，61巻１号

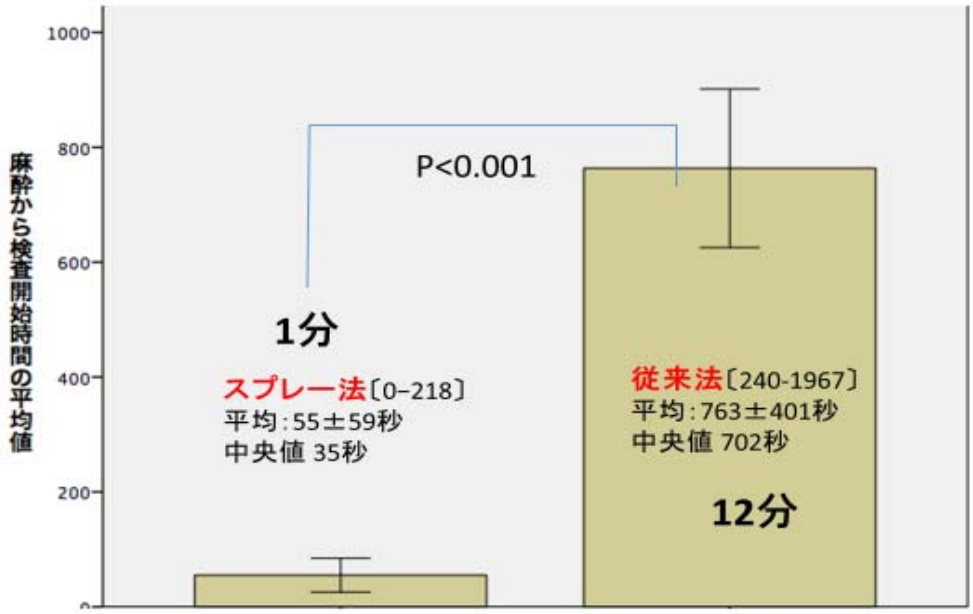

図１　効率化の検討結果

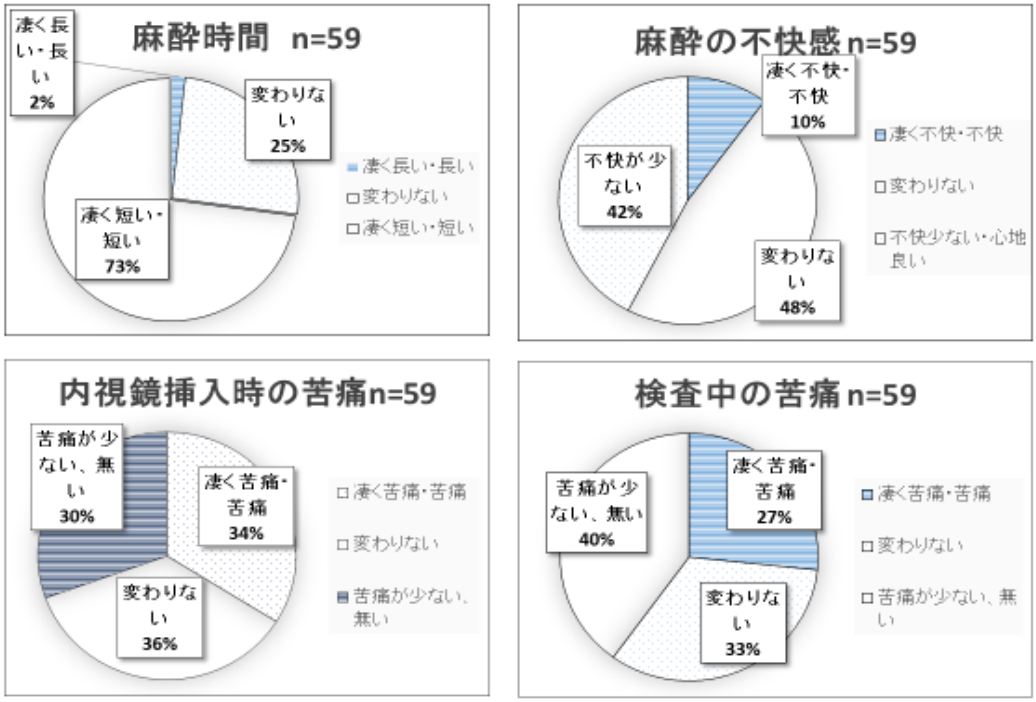

図２　満足度の検討結果

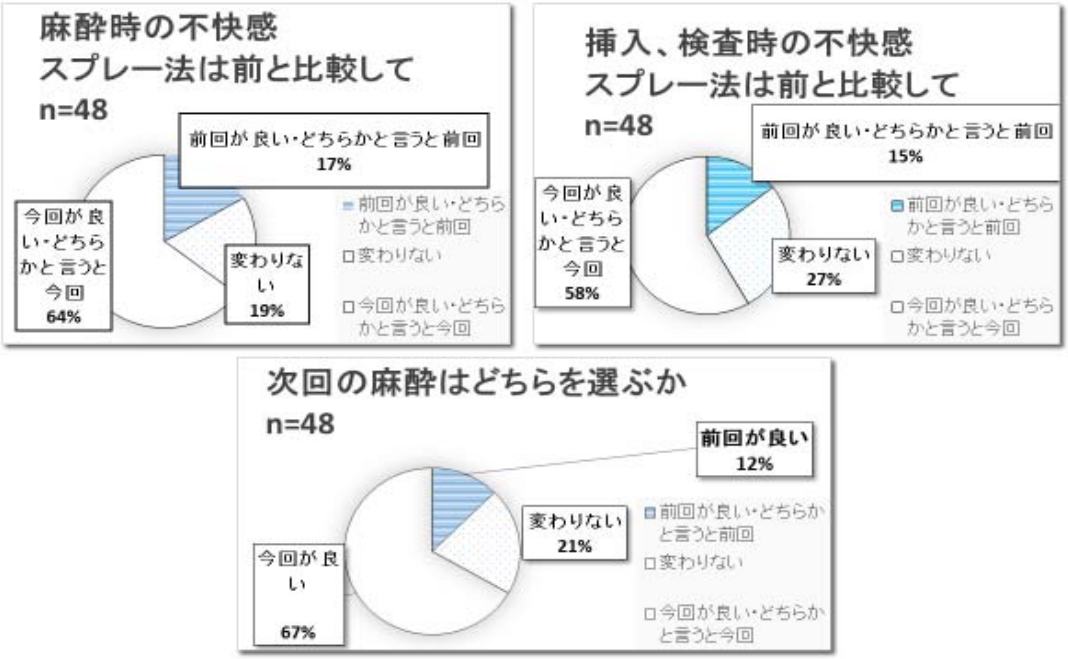

図３　当院の従来法経験者に対する前回との比較